

三浦市三戸 北川湿地エコパーク グランドデザイン

～こんな地域になったらいいな～



谷戸田体験ゾーン：池ノ上
休耕田を水田オーナー制度により復田
し、多彩な里山管理を体験できます。

オオセッカ特別保護ゾーン：釜田
クサヨシ群落を維持した休耕田で、バード
サンクチュアリとして観察が楽しめます。

デジタルセンター
北川湿地の展示解説や、レストラン、グッ
ズの販売などをします。宿泊もできます。

緑農住区域

駐車場
ソーラーパネルを屋根に、夏でも快適な駐
車場。植樹をして周囲からは目立ちません。

赤坂遺跡

弥生時代体験ゾーン
南関東最大級の弥生時代集落、赤坂遺跡の
集落を再現し、当時の営みを体験できます。

北川湿地
メダカも泳ぐ県内最大の湿地の中を、ネイチャ
ートレイルで湿地を痛めずに観察できます。

小網代の森

小網代湾の干潟
県内でも数少ない天然の干潟。海鳥や魚やカニ
で賑わっています。

●北川湿地の価値●

1 万年以上前から存在する北川。そしてそこに生きる自然は、どんなにお金をかけても再現できない地域の宝です。

そして環境の世紀となったいま、数少なくなった豊かな湿地を一目見ようと、人々は高額な旅費もいとわず地方の国立公園へ出かけていきます。誰も、首都圏に豊かな湿地があるとは思っていませんでした。

駅からすぐの北川湿地を活用しない手はありません。その価値を知らぬまま埋めてしまっただけは、せっかくのビジネスチャンスを逃すことになるでしょう。不動産の衰退…大規模開発が流行らない現代でも、環境への市民の関心は高まる一方です。



●フィジビリティ（事業可能性）の高い、発展性のある“生態園”的次世代テーマパークに●

今まで世間に知られることのなかった北川湿地。しかし、オープンになれば何百万人もの人を引きつける魅力があります。今や遠くなりつつある「身近な自然」を、お金を払って勉強する時代がきます。

この北川湿地をはじめとする、三浦地域の自然の魅力を活かし、年間数百万人が訪れる一大テーマパークにしましょう。テーマはもちろん「三浦半島の自然・里山・谷戸・湿地の魅力」。まずは、海進や地殻変動などの痕跡から、三浦半島の生い立ちを目の当たりにすることができます。そして、それらと生き物、さらには縄文・弥生時代からの人々の文化、そして現在の湿地そのものも、実物に触れながら学ぶことができます。もちろん、地元のナチュラリストや各分野の専門家と連携する充実した解説とともに。

遊園地、水族館、公園ではない、新しいタイプのテーマパークを、京急や神奈川県から全国に発信すべきです。フロリダのサイプレスガーデンのような、誰もが利用できて画期的な演出をしましょう。

●埋め立てた方が儲かる？●

最近の三浦半島の大規模開発は、社会状況の変化からことごとく休止や縮小に追い込まれています。

不動産の低迷や人口減少などにより、今後ニュータウンの需要が増える見込みはありません。

残土の発生もバブル崩壊後激減しており、芦名の産廃処分場のように計画倒れにするわけにはいきません！今は見切り発車できる時代ではないのです。

北川湿地埋め立て後に計画されている宅地造成や鉄道延伸が順調に進むとは考えにくく、そうなれば埋め立ての大義名分は成り立たないでしょう。地域にも株主にも迷惑がかかることの無いよう、早期に見直す必要があります。



●みんなが北川湿地の保全を求めている●

神奈川県は、「地域環境評価書（平成2年）」でも、三戸小網代地区が「三浦市の骨格となる緑」として位置づけられています。そして、今年4月3日、京急に環境保全を求める内容の「環境影響予測審査書」が出されました。

～本件事業は、（中略）この豊かな生態系の大部分を喪失することとなるため、実施区域のみならず（中略）周辺地域（中略）に影響を及ぼすことが懸念される。

また、実施区域外の蟹田沢で行うとしているビオトープ整備を中心とする環境保全対策については、（中略）多くの課題があることから、その計画を再検討する（中略）必要がある。～

4月24日、毎日新聞では22面全体を使って北川湿地の保全を求める記事が掲載されました。さらに、県議会や市議会でも湿地の埋め立てが問題になっています。もちろん、三浦市民も、人口の6割以上が緑の保全を求めています。

●“終点”という拠点を●

「小網代の森」は県の所有になりますが、北川の湿地はぜひ地元の利益になる形で環境に配慮した事業化をするべきです。

小田急の「箱根」、京成の「成田山」、私鉄各社は終点に魅力を創出することが要です。京急が「首都圏最大の湿地」を終点に謳えば、観光客や課外授業などで多くの人々が利用します。三戸地区の一連の谷戸は、ジオパークやラムサール登録湿地のように世界的に評価されてもおかしくないほどの価値を有しています。もちろん、そうなれば三浦の緑に憧れて移り住む人もいるでしょう。

一度埋め立ててしまえば、このような資産を永遠に潰すことに繋がるのです。いま流行のグリーンツーリズムなどの環境ビジネスには、絶好の立地です。



●すみずみまで環境配慮型デザインを取り入れた施設

大規模な駐車場、湿地を囲む園路、トイレ、その全てが環境に配慮した設計だったらどうでしょう。新しいタイプのテーマパークとして世界中の注目を浴びます。

北川に到着したら、まずエントランスの教化施設で湿地の展示解説を受けます。周囲の景観にとけ込んだデザインの展示施設、大規模駐車場の屋根にはソーラーパネルをかぶせ、周囲は樹木で遮蔽しましょう。

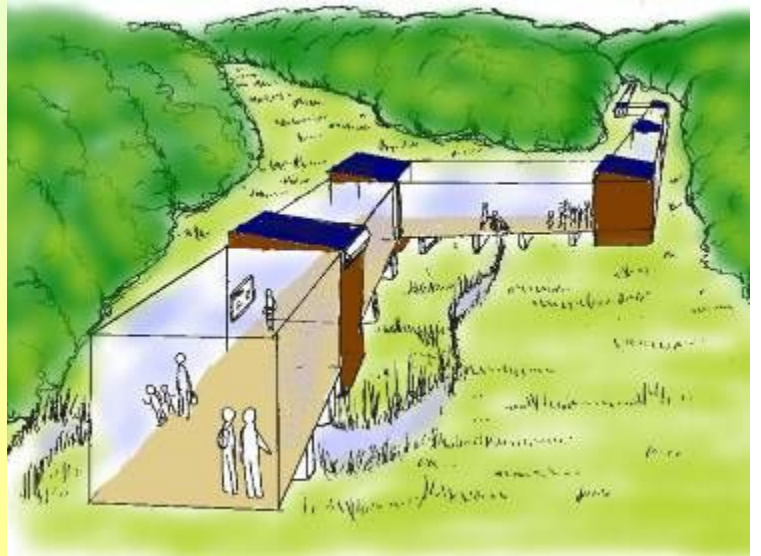
他に類例のないエコなテーマパークは、これからの環境共生型社会できっと当たります。

●ストーリー性のある画期的な演出を●

ディズニーランドのジャングルクルーズや、映画ジュラシックパークのような、解説を楽しみながら野生の動植物が間近で見られる施設が日本にあるでしょうか。

北川湿地入口から広がる生態園で、里山の生き物と直に触れあうことができます。市民団体が管理する水田ビオトープもあります。

そしていよいよ湿地保護区域。要所要所の解説や展示を見ながら、湿地の中のトレイルを自分の足で歩きます。この透明な筒状のネイチャートレイルは、湿地を痛めず野生動物に警戒されずに観察できます。



●子どもからお年寄り、一人から団体まで、幅広い利用●

三浦半島は、首都圏で最も海と緑にふれあえる、観光資源豊かな地域です。そして、その緑を間近に感じるために移り住む人も少なくありません。このかけがえのない財産を潰してしまうのではなく、企業としても持続的な活用を考えていただきたいと思います。

参加費 3000 円の半日エコツアーでは、毎週 300 人の利用があれば年間 4500 万円の収入。学校や団体向けの参加費 5000 円の日環境教育講座では、毎週 200 人の利用があれば年間 5000 万円の収入になります。交通機関・観光業者として、京急のバスツアーや宿泊を伴うツアーなど、京急だからこそできる活用の可能性は大きなものです。



●地域の魅力を事業に活かす方策を一緒に探求しましょう●

三浦・三戸自然環境保全連絡会は、三戸地区の環境保全に関心のある研究者・市民活動家・学生などが集まってできた新しい組織です。会員は、それぞれ豊富な活動経験があり、ノウハウは豊富に持っています。環境保全のためなら惜しみなく協力できる団体です。

極めて冷静に客観的に地域の将来を考えれば、排出される見込みの低い発生土や、人口増加の見込みのない宅地造成は、地域や事業者自信のためにも当然見直されるべきです。そして、環境志向が急激に高まりつつある現代、それをビジネスチャンスとして地域振興に役立てましょう。「ソレイユの丘」のような人工的な環境でも、自然を満喫するために大勢の観光客が訪れる時代なのでから…。

メダカの学校見たことある？

